

■著者・訳者紹介

著者

木村 朗 (KIMURA Akira)

鹿児島大学法文学部教授。1954年8月生まれ。北九州市小倉出身。九州大学大学院時代に旧ユーゴのベオグラード大学に留学。主な著作に、単著『危機の時代の平和学』、編著『核の時代と東アジアの平和——冷戦を越えて』、共著『ナガサキから平和学する1』(いずれも、法律文化社)、編著『市民講座 いまに問う 米軍再編と前線基地・日本』、同『9・11事件の省察——偽りの反テロ戦争とつくられる戦争構造』、同『市民講座 いまに問う メディアは私たちを守るか?——松本サリン・志布志事件にみる冤罪と報道被害』、共著『市民講座 いまに問う ヒバクシャと戦後補償』(いずれも、颯風社)がある。日本平和学会理事、九州平和教育研究協議会会長。インターネット新聞NPJに論評「時代の奔流を見据えて——危機の時代の平和学」を連載中。

ピーター・カズニック (Peter J. KUZNICK)

アメリカン大学歴史学部准教授、核問題研究所長。1948年7月生まれ。米ニューヨーク市出身。1984年、ラトガース大学で博士号(歴史学)を取得。著書に『実験室を超えて——1930年代米国で政治活動家として活躍した科学者』、共著に『冷戦文化の再考』。オリバー・ストーン監督が手掛け、2011年テレビ公開予定の10部からなるドキュメンタリーフィルム『アメリカの隠された歴史』の台本を執筆中。同名の本もストーン監督と共同で執筆している。1995年以来、立命館大学と共同で、アメリカン大学の学生たちを毎夏、広島長崎に引率している。1995年にスミソニアン博物館での原爆被害展示が退役軍人等各方面から反対を受けて中止になったときは、率先してアメリカン大学で原爆展を開催した。アメリカの反核学者の先頭に立つ存在である。

訳者

乗松聡子 (NORIMATSU Satoko)

ピース・フィロソフィー・センター代表、バンクーバー九条の会ディレクター。カナダ・バンクーバーを拠点に、憲法九条、核廃絶への運動、アジア歴史和解、沖縄の米軍基地問題等に取り組む。自らのサイト <http://peacephilosophy.com> やオンライン学術誌『ジャパン・フォーカス:アジア太平洋ジャーナル』 <http://japanfocus.org> を通じ、執筆活動を行う。アメリカン大学と立命館大学共同の広島長崎の旅には、2006年以来通訳・講師として参加する他、カナダ人学生を引率している。